

KODAK Color Control Patches  
© The Tiffen Company, 2000  
LICENSED PRODUCT  
Black  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue

後世傳授事  
二

遠  
666  
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56

通門  
號 665  
卷 2

書林

龜仔



後世傳授車卷之二

目錄

武士

米商人  
こめあさひと

職人  
まよくま

明治三十八年  
九月十一日  
購

後世傳授車卷之二

武士

毛羽あつさる者ハ高く飛ぶとすまう。次。文書あつさる者ハ誅  
 罪を以てへく次といふ。侍ハ文ヲ達シ武ハ長ト軍勢ヲた  
 くまひして士卒を上げし我場ハ能んでハ勝利とゆるの勇と  
 かく家名を聞え玉と治め氏を衰む武智といひ仁といえん。  
 今天下を平此時なり。四の海とてやうはて流流乃細術も腹  
 巻じのさひとありゆく者ハ代乃いとさうかぐ。二術とて  
 かどの人武乃及とまふたぬる者ハ務かきの脚氣やじよ。因  
 昔甲斐の信玄山ハ勅命とまひ。何よても藝ありやと  
 為子勅命なり。その旨他りひるひ是らうり介何も存せ  
 ずと申上る。それヲ寔竟乃一藝と三百石とさる事とさ

後世傳授車卷之二  
 武士

まぬおんごもいよーとまき。我ホのふるん昔ハさうなり。糸鞋  
 革履(かぶり)後(ご)さいの葉(は)葉(は)細(こ)とをらう。劫(くわ)ハ二百(にひゃく)不(ふ)あハハハハハハ  
 又(また)百(ひゃく)不(ふ)も結(むす)らうとふふあめとをいーとそあうなり。武藝(ぶげい)軍法(ぐんぽう)を  
 脩(しゆ)煉(れん)する。武士(ぶし)の侍(侍)授(じゆ)車(ぐるま)あり。其(その)外(ほか)二(に)藝(げい)あるとあつとつらあ。あ  
 者(もの)代(しろ)治(ち)は安(あん)全(ぜん)なれば、練(れん)二(に)武(ぶ)の介(けい)はけいと嗜(たし)石(いし)出(だ)され。時(とき)あふ  
 こと昔(ゆ)のふんぞりさる。あよことあつ。次(つぎ)家(いえ)よ玉(たま)得(とく)集(しゆ)人(ひと)を使(つか)れ。使(つか)  
 下(した)よ卯(う)も。採(さい)津(つ)分(ぶん)といふ人(ひと)あよか。こく武(ぶ)及(およ)ますぐれ。不(ふ)二(に)儀(ぎ)  
 浄(じやう)り連(れん)舟(ふね)能(よ)得(とく)はらるまでふらる人(ひと)まで。お院(いん)のふよりあひ。何(なん)  
 ふら。次(つぎ)住(ぢゆう)合(が)されけり。ある時(とき)其(その)れ奉(ほう)ふ付(つ)て浄(じやう)さしお院(いん)とさん  
 くね。あり。やう天(てん)窓(ま)ともなるべきよとあひある。お院(いん)つづくに  
 院(いん)つぎ其(その)生(せい)法(ぽう)正(しやう)直(ぢく)若(じやく)よて。其(その)理(り)をいふ。火(か)よ入(い)るもふはず。後(ご)五(ご)  
 するあり。溜(りゅう)ひあふ。信(しん)長(ぢやう)ともいふ。たのりき。男(おとこ)哉(さい)とあが。

り。いよお目を下(くだ)され。その裁(さい)評(へい)の正(しやう)法(ぽう)合(が)よめられけり。其(その)正(しやう)  
 法(ぽう)久(く)まら町(まち)近(ぢか)の在(ざい)法(ぽう)合(が)と。若(じやく)乃(なら)娘(むすめ)夫(つま)あ。子(こ)とらう。こ  
 月(つき)は神(かみ)もつ。こ。お院(いん)あ。は。月(つき)に日(ひ)の神(かみ)もつ。こ。お院(いん)あ。は。月(つき)  
 證(しやう)すれともあつていづ。兵(へい)法(ぽう)わらう。親(おや)らう。は。こ。ちて。責(せめ)と。こ  
 き。は。つ。よ。細(こ)と。い。ま。十月(じゅうがつ)も。傷(きず)く。平(へい)産(さん)ハ。は。それとも。相(あ)ひ。ひ。よ。あ。や  
 ま。これ。産(う)産(さん)産(さん)して。七(なな)日(ひ)め。お院(いん)の。身(み)体(たい)う。ぬ。親(おや)らう。か。つ。わ。め。ど。も  
 生(せい)か。ひ。も。あ。つ。娘(むすめ)今(いま)の。時(とき)に。身(み)を。存(ぞん)存(ぞん)の。名(な)を。ま。す。れ。は。こ。ま。さ。ひ。ま。さ。ひ。  
 り。と。仕(し)出(だ)だ。い。れ。さん。ご。う。け。り。あ。ま。あ。ま。あ。の。や。ど。ま。く。あ。ひ。や。ら。ま。き。  
 か。あ。一(いち)娘(むすめ)と。と。へ。何(なん)と。ぞ。は。子(こ)を。乳(ち)あ。る。方(かた)へ。喜(よろこ)み。ま。つ。ひ。は。あ。の。後(ご)私(し)  
 法(ぽう)を。ま。ら。う。ハ。セ。ら。う。し。扱(あ)其(その)世(よ)法(ぽう)と。よ。ま。町(まち)の。徳(とく)乃(なら)作(しやく)を。る。時(とき)あ。つ。れ  
 よ。い。ひ。の。こ。ま。の。あ。あ。あ。あ。あ。か。され。た。の。ね。と。され。よ。と。く。れ。く。つ。ひ。と。さ。き  
 お。果(み)ぐ。り。扱(あ)下(くだ)を。ま。し。ま。れ。う。と。於(あ)て。時(とき)あ。つ。方(かた)へ。あ。け。右(みぎ)の。め。と。は。し。





世傳授車とすも乞とすよりとす。されを買の字はよ十一と記。  
賣とよあり。物より二割三より。或ハ六分三厘の利。を物するふさ  
まくあがり。惣て言利する商ハ大商人のものをあり。家室町のあ  
ぢやのには源義朝乃大相賣体とあがる。小利をあまてり。この利  
をあるとよきとて。極く減はし。商業。あうら。つて。實ハ買  
つ利あるよ。十八年まで。二丁の利ハ。あがりありと。笑ひ。商人ハ多  
目入と。と。こ。い。い。あ。ぢ。や。ハ。家。内。二十。人も。こ。じ。り。あ。う。れ。ど。も  
代物よ。ゆきと。ころ。或ハ。商人と。たま。す。の。こ。い。い。才。商人の。嗜  
て。せ。ま。い。き。の。あり。其。家。の。富。り。の。い。ま。く。は。中。以。大。坂。の。茶。や  
よ。人。参。の。着。盧。頭。と。買。込。蔭。て。糸。よ。て。あ。の。よ。せ。于。て。き。ご。三。切。人。参。  
と。名。解。賣。る。る。よ。切。は。梅。を。と。ま。ま。ご。さ。あ。が。り。物。鮮。人。参。れ。つ。い。余  
の。や。う。よ。あ。り。け。れ。ば。う。ろ。ろ。と。茶。や。あ。ま。者。あ。り。れ。医。者。あ。り。ハ。ま。

さて大坂のうのこをまけ。家。蔭。と。て。あ。り。ハ。富。ま。あ。り。し。も。今  
見れば。源。と。く。其。孫。橋。乃。下。は。記。附。る。自。家。の。因。果。ハ。か。れ  
が。う。家。は。流。家。柳。石。と。い。ふ。よ。秋。系。や。勘。七。と。て。米。や。あり。日  
よ。又。秋。系。や。甚。七。け。あ。家。り。と。ハ。家。の。い。れ。か。れ。も。米。と。あり  
て。あ。り。て。あ。る。人。た。り。あ。が。り。か。け。つ。お。け。つ。の。商。人。あり。或。時。甚。七。方。へ  
大。坂。より。の。あ。ま。り。て。状。を。さ。し。出。す。急。ぎ。完。き。ら。る。よ。ハ。柳。系  
あ。り。く。源。と。く。入。取。す。く。か。く。と。ん。く。お。場。よ。く。世。今。い。ち。あ。げ。買。入。ま  
く。出。し。い。む。く。つ。よ。き。と。き。と。十八。日。入。津。の。三。百。俵。賣。り。べ。く。や。ハ  
丸。右。飛。夜。との。文。神。い。方。定。へ。と。上。書。を。送。り。見。れ。ば。秋。系。や。勘。七。  
南。云。云。や。う。遠。よ。て。人。の。状。と。并。さ。う。る。不。調。法。い。く。せん。と。源。柳。よ  
い。は。し。と。い。へ。ば。飛。御。も。何。天。是。ハ。私。も。不。念。秋。系。甚。七。勘。の。ち。う。い。せ  
世。也。扱。行。と。い。は。んと。い。ふ。甚。七。ハ。せ。れ。つ。き。い。ま。り。て。甚。七。あ。り。者。あ。れ

ハ飛脚のせんぎと云ひるく飛脚代は余る程う〇とそせ。えのや  
うは封じ中よてあの中へ送らるやうよひ思め。秋原やへ  
飛けらば。むせひすうきおをれ。杖ちんよを理はば。よひ  
やどよあひさうひせられよ。まあひ家よてかきひらうと。金  
よいハ。お氣づひ下されす。あやうよも中分し。こ  
をさんせらるよ。へやぐやまぐと。怪し。秋原やへ急ぎらり。  
は勤七。飛脚。秋原の暮よて大坂と云しを方おれ。かやうれり  
もあつべきうと。〇て向やと。い合せ。あられハ下るし。書。さぐれハ上  
るとあらう。こちれさうせと。甚七。友よもあらず。は杖をさるそ  
いふや。勤七よ先をこされ。と。をいを里の暮と。買廻。志んごい  
あり。ぎりのと。一門一家の田畑までかり。質入。入。情の。續。之。料  
と。買。込。大。取。よ。つ。て。吹。風。よ。ま。ま。う。せ。上。乗。て。大。坂。へ。こ。れ。ハ。外

のふけいき。南。西。三。が。う。と。カ。落。し。ま。よ。の。天。付。て。せ。り。て。こ。づ。う。の。換  
ふて賣うと。又取を出す。ふ。折。希。密。同。つ。き。取。ぶ。れた。よ。ひ。風  
よ。ま。ま。れ。敷。日。経。れ。も。何。方。へ。去。へ。さ。や。う。す。と。も。え。は。次。船。取。院  
よ。あ。ま。て。命。の。程。も。ん。り。と。か。目。比。命。一。つ。る。観。音。ね。か。ん。と。お  
こ。い。取。目。の。方。へ。お。け。ま。お。ん。ど。け。ま。ら。ん。地。も。あ。り。し。よ。む。い。の。方  
よ。い。と。も。見。せ。れ。と。え。い。方。へ。指。と。さ。り。り。ら。る。よ。や。う。と。う。て。つ。の。お  
つ。と。う。り。再。魁。ら。る。や。う。よ。焼。く。は。濱。と。う。ら。ん。鬼。ふ。も。あ。て  
目。中。人。と。い。う。う。つ。き。換。ふ。と。見。れ。ば。人。と。池。と。よ。い。念。佛。の。り。ま。ぬ。取  
鬼。地。ら。る。人。い。う。う。つ。と。か。さ。ん。の。歌。さ。か。あ。い。び。共。を。亦。後。お。そ。ら  
か。う。取。を。よ。せ。子。細。と。と。人。の。家。ハ。奥。州。と。離。れ。え。を。を。き。松。蔭。乃  
蔭。か。う。つ。つ。く。ハ。米。き。不。代。女。百。文。よ。い。こ。次。徳。分。を。あ。ら。あ。ら。よ。  
を。秋。乃。は。湯。に。田。畑。と。う。れ。今。年。米。か。く。を。石。の。あ。ら。い。百。文。よ



はむ百石の浪ありといへども来ふとや。さるよふくが橋よ目  
乃まよらぬめとん下るよと浪とともかつるふぞ。甚七家と催  
し。我が流方の若衆同よきてとすけあふれ来りて幸來  
あり。いやどよ買ふんやとよぶおの若ども怪ひき石付八拾九あり  
九十四まで。あひくよ入れはると。こぼき見ていやく。出来ぬ  
てたふよ買あして。大坂まで換ゆべさと誓念よあひて。い  
と志し今らまたよひあされ。と十九賣。いぢをあり。然るよ  
ふかこのごとの歌よあひきと救へんがあつて。次とて。を石を捨  
極り。まよは詔石のりまあふぬと。結末。よとあげられ。扱  
賣人か。我一と買ひて。き。日のうらよ二千石余。ゆふと賣ら  
面と欲。表れよひを。扱け。時か。やれ。饑飢。ち代。来。ま。なり。元  
子。秋。も。ち。し。味。よ。あ。も。ま。の。あ。れ。は。困。窮。昔。が。り。と。あ。へ。

い人ば来とかく下車よ。働ハ神佛陀の正意。取とて。忍とよ  
うぬ。畜生よ。夫あつ。次とや。ふ。今。の。親。あり。ん。ご。り。れ。れ。と。せ  
んとて。或。自。布。二。来。米。糠。或。依。之。儀。徳。膳。串。蛇。温。明。齋。の。れ  
これもくと。扱運び。私へ。抱。込。く。を。よ。す。甚。七。か。よ。と。辞。退。す。れ  
ごもきいれ。甚七とお。これ。ゆり。ろ。凡。浪。よ。積。り。て。九。十。賣。の  
を。ろ。う。扱。と。ぞ。見。へ。り。後。ろ。あ。ふ。ま。松。蔭。の。守。候。あり。と。  
役人。大。幣。来。り。て。甚。七。と。い。ふ。か。よ。り。す。も。れ。又。難。風。よ。あ。ひ。ん。地  
よ。て。既。と。地。よ。け。け。と。承。ろ。川。家。老。富。貴。今。ま。を。何。出。さ。る。く。い。は。な  
は。困。窮。して。民。百。姓。難。き。よ。及。ぶ。不。も。方。来。下。車。よ。り。て。救。へ  
ら。る。ん。神。め。あり。と。て。山。海。の。珠。扱。よ。て。神。神。理。と。下。され。黄。金  
三。拾。枚。銀。の。及。三。拾。枚。た。け。り。三。百。廿。下。と。ろ。ろ。糸。あり。が。く。頂  
戴。は。べ。と。存。ら。ぬ。は。念。の。衆。是。乃。踏。下。と。云。れ。云。夜。い。さ。き



順風は海をせむぎうてゆり。一家知る呼集候の大つらまひ  
酒宴中むへ玉の守候より甚七あり。南云三がう改かふ  
化をせしむとがめよてのりや家ま財宝さうあけらるるあらん。お  
も一升入代長二升どやとつぶさきあぐ。御白砂よ畏まる。役人候  
出さる。其方いそ奥松越の藩よて来下車より。人民を  
すいし。別松屋度より。此の使を玉来せり。い方領内よ  
かやうの仁者ある。此玉のまへか分る。居候は満是と思は  
る。ゆゑ其方候の枚所候の頼田千北町候り。よりよ下さる  
る。あがく。中後。セッアと候ひの眉といひき。頼田といひく。扱  
もつらまひ。すうら。どののゆら。いりのいよ。

織人

織と南とハ陰陽また人。織ハ陰あり。南ハ陽あり。陽のほけハ

動てす。織人ハ精まらてとそく。大忌敷よかどくハ。織ハ  
大忌陰の飛るよ。よつて。始末と敷へ玉米の飯大豆の食とま  
る。赤出の小槌とよよて。生織の竹投車以滞りなくまへせ。ハ  
かゝわりの出ると志り。商人のどく。初くをめ。は。ま。入。る。米  
よ。と。つ。ら。ま。ひ。と。あ。り。世。の。の。あ。り。家。ま。大。坂。上。町。よ。ぬ。い。や。を。あ。り  
といふ者あり。弟の塗物の上よよて人をてとわ。家。富。を。よ。も  
成へ。と。身。の。酒。と。この。味。と。ほ。び。は。山。北。奥。よ。も。商。人。は。同。し。て。  
始末とあらぬ。ぬ。家。負。漆。賣。と。く。か。どの。か。も。あ。く。向。や。ん。よ。て  
是。浪。かり。て。人。も。う。る。さ。く。あ。か。ど。か。し。は。は。ま。く。律。を。ま。て。人。た。ま。さ。ず。  
やう。其。目。と。し。ひ。けり。其。友。よ。と。茶。や。ち。と。い。ふ。ら。物。向。や。い。を。あ。り  
と。も。の。ま。ど。く。中。の。あ。ぬ。様。の。細。と。や。り。て。め。ぐ。さ。る。が。い。を。あ。り。織  
人。と。親。よ。あ。り。て。は。い。ぬ。よ。て。始。末。あ。ら。ぬ。と。う。り。く。夫。を。す。れ。ま。も

耳よりかひて。へろ七十有来まれあり。雷光石火の教もあつて。百ののり末と  
 ろふに。癩れむ。今日あつて。ゆるぬ。身志や。合身くして。まじりて  
 そ。法利と。泊して。を。と。ま。お。く。十月の。法。を。系。や。ち。七。十。夜。講。の。由。あ。し。て  
 衣。を。ま。さ。し。の。次。は。は。作。毛。の。襟。帯。の。き。り。に。去。て。を。き。き。草。の。皮。と。む。と。今  
 宵の料理をこく。括くおろす。五へ。湯。木。を。い。つ。ま。り。懐。く。り。根。を。百。を。三。利  
 根。が。と。ね。派。を。日。か。き。量。を。半。や。根。あり。糸。と。一。れ。の。火。の。け。れ。が。ち。七  
 法。え。つ。で。も。大。る。の。ふ。い。よ。ま。迷。の。延。年。又。い。つ。バ。何。時。ま。て。も。掛。け。利。根。よ。り  
 度。い。ぬ。わ。く。利。を。と。り。下。され。の。い。づ。ま。て。を。ん。き。り。あ。く。ひ。と。あり。へ  
 かりの。ゆ。よ。を。と。や。日。も。くれ。かん。講。中。も。追。討。ま。い。つ。は。い。ん。先。は  
 世。と。と。す。う。お。は。ご。う。ま。て。つ。も。り。も。あ。く。相。渡。の。うち。くれ。やす。さ。日  
 と。て。求。よ。入。れ。ハ。講。中。ま。り。あ。ひ。て。老。の。遍。照。も。せ。ぐ。く。百。万  
 べん。の。廻。る。の。り。養。心。の。胎。と。て。よ。ん。と。れ。ま。れ。に。あ。ま。業。は。揚。豆。腐

とは。あ。り。す。り。す。つ。も。あ。く。く。死。に。去。く。ぞ。ハ。活。と。あり。て。ぬ。や。む。糸。屋。ハ。一。つ  
 あります。福。よ。汁。統。ぐ。だ。め。う。ま。ま。よ。積。を。活。を。活。の。嫌。ひ。あ。れ。と。も  
 あ。こ。も。ま。い。ら。ぬ。福。よ。懸。名。代。の。綿。糸。よ。か。され。かん。と。接。婦。よ。く。以。眼。中。し。  
 を。目。く。と。と。れ。く。が。家。よ。か。れ。バ。法。さ。び。を。松。の。風。と。う。く。と。吹。取。れ。バ。火。の  
 相。心。結。ん。と。亭。主。と。こ。く。氣。死。記。る。時。減。り。目。くれ。は。い。ち。う。う。り。も  
 ござれ。又。百。五。と。た。げ。ぬ。れ。が。形。も。さ。女。房。子。も。ぞ。も。も。肝。と。う。り。ご。こ  
 よ。と。う。ち。あ。つ。と。と。ろ。か。杉。へ。入。ん。と。い。ひ。ら。は。講。中。に。せ。か。と。よ。先。み。あ。し  
 あ。げ。ん。と。持。佛。堂。に。あ。り。あ。つ。と。と。き。え。ん。香。火。を。つけ。し。時。心。を。さ。じ。く。活。の  
 り。よ。す。れ。念。佛。よ。も。根。と。も。れ。今。の。ひ。ゆ。と。せ。ん。ご。り。ひ。て。人。殺。へ。ぶ。や  
 と。家。内。ま。つ。り。入。り。え。れ。と。も。く。し。細。け。お。よ。ハ。活。を。あ。つ。と。と。あ。ぬ。く。あ。つ。と  
 教。じ。り。て。ヲ。そ。れ。く。と。い。へ。あ。の。人。は。活。り。な。れ。盗。奪。を。い。ら。ぬ。と。い。ふ。と。ハ。二  
 と。心。の。ぬ。す。と。よ。意。の。方。と。い。ふ。あり。え。ん。え。ん。人。殺。入。の。似。合。ぬ。と。い。ふ。人

養心集 巻之二 三十一



中人とていふところちんちんたるがれがらも極月もあじほや肴やの通いさ  
<sup>お</sup>しく<sup>お</sup>腹<sup>お</sup>ふくろ<sup>お</sup>け<sup>お</sup>命<sup>お</sup>おれ<sup>お</sup>が<sup>お</sup>出来<sup>お</sup>ふ<sup>お</sup>ある<sup>お</sup>ほ<sup>お</sup>じ<sup>お</sup>とも<sup>お</sup>い<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>せ<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>と<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>り  
を<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ほ<sup>お</sup>き<sup>お</sup>その<sup>お</sup>は<sup>お</sup>や<sup>お</sup>ふ<sup>お</sup>く<sup>お</sup>け<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。ま<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>る<sup>お</sup>う<sup>お</sup>け<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>る<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>じ<sup>お</sup>や<sup>お</sup>。是<sup>お</sup>は<sup>お</sup>な<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う  
ぬ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>。よ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>や<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>の<sup>お</sup>に<sup>お</sup>は<sup>お</sup>限<sup>お</sup>り<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>る<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>じ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>ふ<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>。物<sup>お</sup>の<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>く<sup>お</sup>貪<sup>お</sup>し<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>  
時<sup>お</sup>は<sup>お</sup>其<sup>お</sup>も<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>く<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>の<sup>お</sup>と<sup>お</sup>や<sup>お</sup>。其<sup>お</sup>の<sup>お</sup>こ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>き<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>る<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>る<sup>お</sup>違<sup>お</sup>ひ<sup>お</sup>は<sup>お</sup>。え<sup>お</sup>は<sup>お</sup>な<sup>お</sup>定<sup>お</sup>まり<sup>お</sup>。は  
人<sup>お</sup>の<sup>お</sup>て<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>は<sup>お</sup>し<sup>お</sup>。あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>は<sup>お</sup>は<sup>お</sup>は<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>。ま<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>せ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>と<sup>お</sup>信<sup>お</sup>念<sup>お</sup>を<sup>お</sup>く<sup>お</sup>を<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>方<sup>お</sup>も<sup>お</sup>き<sup>お</sup>。物<sup>お</sup>を<sup>お</sup>  
行<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。其<sup>お</sup>え<sup>お</sup>も<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>皆<sup>お</sup>世<sup>お</sup>は<sup>お</sup>何<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>な<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>。よ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>て<sup>お</sup>は<sup>お</sup>い<sup>お</sup>る<sup>お</sup>。バ<sup>お</sup>眼<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>の<sup>お</sup>り<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>あり<sup>お</sup>。  
これ<sup>お</sup>は<sup>お</sup>佛<sup>お</sup>も<sup>お</sup>懺<sup>お</sup>悔<sup>お</sup>滅<sup>お</sup>罪<sup>お</sup>と<sup>お</sup>説<sup>お</sup>は<sup>お</sup>は<sup>お</sup>。必<sup>お</sup>く<sup>お</sup>懐<sup>お</sup>か<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ふ<sup>お</sup>。お<sup>お</sup>付<sup>お</sup>て<sup>お</sup>も<sup>お</sup>。つ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>て<sup>お</sup>も<sup>お</sup>念<sup>お</sup>  
ひ<sup>お</sup>た<sup>お</sup>この<sup>お</sup>ゆ<sup>お</sup>。百<sup>お</sup>一<sup>お</sup>を<sup>お</sup>え<sup>お</sup>え<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>。そ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>か<sup>お</sup>の<sup>お</sup>恨<sup>お</sup>み<sup>お</sup>我<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>う<sup>お</sup>も<sup>お</sup>や<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>  
こ<sup>お</sup>す<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>。あ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>や<sup>お</sup>う<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>え<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>げ<sup>お</sup>た<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>い<sup>お</sup>。よ<sup>お</sup>も<sup>お</sup>懐<sup>お</sup>か<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>。佛<sup>お</sup>の<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>も<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>ひ<sup>お</sup>。二<sup>お</sup>世<sup>お</sup>  
の<sup>お</sup>月<sup>お</sup>に<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>我<sup>お</sup>こ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>て<sup>お</sup>も<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>と<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>念<sup>お</sup>は<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>な<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>。つ<sup>お</sup>の<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>く<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>  
と<sup>お</sup>。こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>と<sup>お</sup>の<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>ぬ<sup>お</sup>い<sup>お</sup>は<sup>お</sup>い<sup>お</sup>。む<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>幸<sup>お</sup>氣<sup>お</sup>の<sup>お</sup>肩<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>そ<sup>お</sup>め<sup>お</sup>。ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>い<sup>お</sup>く<sup>お</sup>人<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>

に<sup>お</sup>じ<sup>お</sup>が<sup>お</sup>や<sup>お</sup>しく<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>て<sup>お</sup>。扱<sup>お</sup>く<sup>お</sup>西<sup>お</sup>目<sup>お</sup>も<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>き<sup>お</sup>は<sup>お</sup>念<sup>お</sup>に<sup>お</sup>存<sup>お</sup>の<sup>お</sup>通<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。一<sup>お</sup>條<sup>お</sup>の<sup>お</sup>財<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>よ  
を<sup>お</sup>い<sup>お</sup>は<sup>お</sup>し<sup>お</sup>。あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>う<sup>お</sup>せ<sup>お</sup>ぬ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>世<sup>お</sup>の<sup>お</sup>か<sup>お</sup>み<sup>お</sup>。こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>。や<sup>お</sup>と<sup>お</sup>も<sup>お</sup>は<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>し<sup>お</sup>  
か<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>。念<sup>お</sup>え<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>せ<sup>お</sup>ず<sup>お</sup>懐<sup>お</sup>か<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>ひ<sup>お</sup>こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>る<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>。測<sup>お</sup>を<sup>お</sup>極<sup>お</sup>で<sup>お</sup>埋<sup>お</sup>る<sup>お</sup>は<sup>お</sup>美<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>す<sup>お</sup>。  
あ<sup>お</sup>も<sup>お</sup>た<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>げ<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>い<sup>お</sup>と<sup>お</sup>う<sup>お</sup>。今<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>も<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>す<sup>お</sup>。ひ<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>行<sup>お</sup>と<sup>お</sup>を<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>き<sup>お</sup>や<sup>お</sup>う<sup>お</sup>は<sup>お</sup>た<sup>お</sup>こ  
ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>と<sup>お</sup>。涙<sup>お</sup>と<sup>お</sup>き<sup>お</sup>し<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>。さ<sup>お</sup>す<sup>お</sup>が<sup>お</sup>い<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>も<sup>お</sup>ひ<sup>お</sup>人<sup>お</sup>の<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>と<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>く<sup>お</sup>。こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>や<sup>お</sup>う<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>。  
ま<sup>お</sup>も<sup>お</sup>と<sup>お</sup>方<sup>お</sup>の<sup>お</sup>り<sup>お</sup>年<sup>お</sup>中<sup>お</sup>細<sup>お</sup>と<sup>お</sup>や<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>が<sup>お</sup>其<sup>お</sup>内<sup>お</sup>を<sup>お</sup>て<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>く<sup>お</sup>。二<sup>お</sup>季<sup>お</sup>は<sup>お</sup>仕<sup>お</sup>切<sup>お</sup>の<sup>お</sup>た<sup>お</sup>  
念<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>。こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>小<sup>お</sup>込<sup>お</sup>海<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>。さ<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>が<sup>お</sup>二<sup>お</sup>年<sup>お</sup>は<sup>お</sup>い<sup>お</sup>お<sup>お</sup>海<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>が<sup>お</sup>。極<sup>お</sup>は<sup>お</sup>  
<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>。念<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>た<sup>お</sup>は<sup>お</sup>は<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>約<sup>お</sup>束<sup>お</sup>。先<sup>お</sup>を<sup>お</sup>極<sup>お</sup>月<sup>お</sup>の<sup>お</sup>仕<sup>お</sup>切<sup>お</sup>は<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>。初<sup>お</sup>。三<sup>お</sup>月<sup>お</sup>  
あ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>七<sup>お</sup>月<sup>お</sup>九<sup>お</sup>月<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>。及<sup>お</sup>た<sup>お</sup>及<sup>お</sup>た<sup>お</sup>昔<sup>お</sup>半<sup>お</sup>分<sup>お</sup>上<sup>お</sup>テ<sup>お</sup>す<sup>お</sup>。ふ<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>の<sup>お</sup>余<sup>お</sup>は<sup>お</sup>海<sup>お</sup>う<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>作<sup>お</sup>  
を<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>と<sup>お</sup>七<sup>お</sup>方<sup>お</sup>の<sup>お</sup>煤<sup>お</sup>掃<sup>お</sup>持<sup>お</sup>仏<sup>お</sup>堂<sup>お</sup>重<sup>お</sup>敷<sup>お</sup>の<sup>お</sup>けて<sup>お</sup>。其<sup>お</sup>上<sup>お</sup>と<sup>お</sup>を<sup>お</sup>く<sup>お</sup>時<sup>お</sup>分<sup>お</sup>や<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>  
れ<sup>お</sup>。ま<sup>お</sup>の<sup>お</sup>い<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>り<sup>お</sup>成<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。又<sup>お</sup>百<sup>お</sup>目<sup>お</sup>利<sup>お</sup>根<sup>お</sup>か<sup>お</sup>。海<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>。古<sup>お</sup>七<sup>お</sup>肝<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>  
し<sup>お</sup>。心<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>方<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>と<sup>お</sup>い<sup>お</sup>。こ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>い<sup>お</sup>の<sup>お</sup>い<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>う<sup>お</sup>も<sup>お</sup>。初<sup>お</sup>天<sup>お</sup>。二<sup>お</sup>人<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>を<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>方<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>

申す所のは牙こまくと世に流し二人とも其えへ射し生てはくはを  
角講中のりこまゆのほも堪思ふされ下されしとよすればむあつ天  
とあり地はれりやう。相ありがさ講中の交り佛神の裏ふ。我其  
うごきて流むかり是へあし。志れども多度しれだとい余の人より  
うりとも我は落るる治定あり。志るふあしをひて益ありと益人を身  
よごり居る子細の天我の感は似合ぬお山居食と志りまのりへ先  
身とつまやうに指しそれかどへき出すべきそのとまのりは身をやめ。佛  
看とめめまるといしこれこそ我とりもひれがうり。王附長えはぬ  
人ふよひははゆるはず。びるの治治と我其まほほ。志れはもづれもの  
以新あすやと寝ひければ二人も乃理よむ。其おん入れかまんぞういじ  
赤付ましくと赤と右のひは利を添二百目よしてとせむ。それあり。えん  
出来て志んといやうまいよく。情も志んといくあり。うらよ。いりせらるよま

へ扱こまくとくおむあつ我と。まれもくと念はよありて。今大板よかくれ  
あき大名が。今のうれ人

渡世傳授車卷之二

